

## 第6回 仙台市総合計画審議会議事概要

この議事概要は、事務局の責任においてとりまとめた速報であり、事後に修正する可能性があります。なお、正式な議事録については、別途ホームページに掲載しますので、そちらをご覧ください。

日 時	平成22年11月16日（火） 18：30～21：00
会 場	仙台市役所 2 階 第一委員会室
出席委員	阿部一彦委員、阿部初子委員、江成委員、大草委員、大滝委員、大村委員、岡本委員、小野田委員、菊池委員、小松委員、佐竹委員、菅井委員、鈴木由美委員、高野委員、西大立目委員、西澤委員、庭野委員、針生委員、樋口委員、間庭委員、宮原委員、柳生委員〔22名〕
欠席委員	足立委員、石川委員、内田委員、鈴木勇治委員、永井委員、増田委員、水野委員、柳井委員〔8名〕
仙 台 市	企画調整局長、企画調整局次長、総合政策部参事、総合計画課長、総合計画課主幹(2)、青葉区役所区民部長、宮城野区役所区民部参事、若林区役所副区長、太白区役所副区長、泉区役所区民部長
次 第	1 開会 2 議事 (1) 仙台市基本構想・基本計画（中間案）に対する市民意見について (2) 仙台市基本構想・基本計画（中間案）の修正の方向について (3) その他 3 閉会
配 付 資 料	1 仙台市基本構想・基本計画（中間案）に対する市民意見の状況 2 仙台市基本構想・基本計画（中間案）に対する市民意見の概要 3 市民意見等を踏まえた基本構想・基本計画（中間案）の修正方向（案） 4 基本構想・基本計画（中間案）の修正概要（案）

### 会議の概要

#### 議事

#### (1) 仙台市基本構想・基本計画（中間案）に対する市民意見について

・事務局から資料1、2を基に説明し、その後意見交換を行った。

##### <主な意見等>

・いろいろな機会に市民の意見を聴いていただいたが市民の関心度はどうか。

区民意見交換会は前半と後半と日程を分けて開催したが、後半は参加者も多く、10年先を見据えたあるべき論などたくさんのご意見をいただき、非常に関心が高まっていると受け止めている。

#### (2) 仙台市基本構想・基本計画（中間案）の修正の方向について

- ・事務局から資料3、4を基に説明し、その後意見交換を行った。

<主な意見等>

- ・自分も周りから意見を聴いたが、基本計画10年の方向性を見て、何を実施するかが見えない、具体性に欠けるという意見もあった。個別の施策については実施計画があることを伝わりやすく書くべき。もう一つ、人口減少について、もう少し危機感をあおってもよいとの意見を結構いただいた。計画を見たとき、地域にきめ細かに対応していくと書かれている以上、地域の必要なものは必要だと伝えれば応えてくれるという希望を逆に抱いてしまう。厳しい部分はやはり切り捨てる、受益者負担など負担してもらう部分もあるということをきちんとうたったほうが、現実的な計画になるとの意見を多数いただいた。

基本計画と実施計画の仕分については、実施計画をもう少し詰めてからご議論いただきたい。危機感をあおることについては、やはり両方の意見があり、マイナス面を強調し過ぎない方がよいという意見の方が多かったと感じている。なお、受益者負担などの都市経営面での個別具体のテーマについては、市役所の自己変革の中で今後きっちりと記述していきたい。

- ・資料4の中で、財政基盤の確立などかなり具体的な中身も含んでいるが、この段階でここまで書くとかなり制約が出てくるのではないかと思う。その辺は、実施計画についてもこれを反映していくという捉え方になると思うが。
- ・市民力を持った人間を子供の頃から育てていくという視点が重要。小さい頃の遊びや、友達と協調したり、仲間をつくったりする体験が重要。学びという言葉は何度か出てくが、子供の主体的な行動を育てることにより、活発で、しかも人と協調できる人材が育っていくという考えを何らかの形で入れてほしい。

基本構想の中の市民力や、重点政策の学び及び支え合いの中で子育てに言及しているが、ご指摘のような、政策を進める上の哲学のようなものを入れることについて、今後検討してまいりたい。

- ・最初に市民力を中心に置いた理念が示されるようになり、非常に分かりやすくなった。
- ・学びについては、市民力を掲げる中での学びであれば、単に暮らしの中に楽しみや充実を生み出すものであるというものを超えて、地域づくりや地域課題解決、都市づくりの活力に役立つという視点がもっと入ってきてほしい。
- ・中間案からかなり印象が変わったものになっており、もう一度市民に問い掛けることが必要なのではないかと思うがいかがか。

中間案について、全体的な流れはおおむね了解を得たと感じているが、中身としては様々のご意見をいただき、現在まとめている。今後、審議会や議会でのご意見も踏まえてとりまとめ、また議論をいただく。現行基本計画の期間が終了し、その前に議会に提案するというスケジュールもあり、当初から予定している流れでの作業手順となっているのでご了解いただきたい。

- ・4つの都市像に副題がついているが、意図がよく分からない。もう少し説明してほしい。都市像については、基本的な方向性について多数の賛同をいただいた。一方で、仙台らしさを強く出すなど、個別の要望も多くいただいております、これまでの都市像の内容を膨

らませたいと思い、工夫してみたところである。

- ・余り無理して副題のような形でコンパクトにせず、一定程度の説明を記載する形の方が分かりやすいのではないか。

賛同の意見が多かった都市像の記述は維持しつつ、都市個性につながるような記述を求める意見に応えるため工夫したもの。施策分野での達成状態が分かる記述について調整しており、それも含めて後日ご議論をいただきたい。

- ・両立する持続可能な財政基盤の確立に関して、戦略的な企業誘致や未利用地の有効活用の推進の表現があるが、非常に消極的に感じる。産学官連携による産業振興など、もう少しインパクトのある表現を使ってほしい。

財政の健全さの確立には、実質的な収支均衡型の予算を組むことが基本。行革を徹底して歳出削減・歳入向上を進める、税源かん養を図るなどがあるが、ここではあくまで例示的にとどめており、ご指摘の部分は経済活性化などの各分野で記載している。

- ・全体的に学びが強く出ているが、企業人が読むと、企業はとりあえず商売だけ行っていればよいと読める。若者も大事だが、中年層もまちづくりに入っていけるような形をどうつくるのが大事であり、それには企業が変わっていかなければならない。中年層は、ある意味では社会を動かすということを担っており、実権を持っていて影響力が大きい。そういう人たちが若者にアドバイスをしたり、自分たちがリタイアしたときにまちづくりにずっと入っていけるような環境をつくっていかないといけない。企業や企業人が持っているリソースは、やはり地域にとっては非常に影響力が大きい。そうした社会貢献型企業をより戦略的に増やしていくため、CSR調達のようなインセンティブについて行政は考えるべき。

本日の資料は、特に経営方針のところが文章化されていない状態でまだ書き込めていないが、企業の社会貢献の必要性や行政としてのバックアップなど、企業に期待しているところ大きいので、今後文章化していく中で、十分対応していきたい。

- ・すごい勢いで経済が活性化しているアジアの国がすぐ脇にいるわけで、そうした環境問題などで悩んでいるところに対して、仙台の環境づくりや、環境づくりと産業を連携させた取組をアピールするような仕組みはつくれないか。著しい工業化の進展により、農業とのバランスを失っていく国に対して、東北の農とか林とかを中心に内に閉じこもらず、何かやる仕掛けができないか。
- ・仙台、東北が持っているいいものをしっかりとある目標に向けて、仙台の中に新しい流れをつくり込んでいくようなストーリーが欲しい。このままでは非常に内向きな計画になり、仙台市民はそれでいいかもしれないが、外から見て本当にそれでいいのかという感じを与えかねない。特に経済、産業の部分にそうした印象が非常に強い。  
仙台市では、ものづくり系が他都市に比べて弱いと実感している。現在は、再生エネルギー系のものづくり企業をどう育成していけるか、少し着手したところであり、そうしたものについて、実施計画の中で少し書き込めればよいと考えている。
- ・地域で支え合う心豊かな社会づくりについて、実際の労働年代の方々の地域での支え合いに関する記述が少し足りないので、書き込んでほしい。
- ・「地球環境時代にあって」との表記があるが、地球環境の改善や保全という言葉を補っ

た方がよい気がする。

- ・観光に関わる部分にシンボルゾーンの形成とあるが、どういうものを指しており、どういう意図になるものなのか。

現段階でイメージしているのは、国際センター駅周辺開発について、新しいシンボルゾーンというような意味合いで整備することを念頭に考えている。

- ・交流の中心をある程度フォーカスするのはいいことだが、例えば秋保や作並の温泉といった仙台の全体の集客交流に関する記述は薄まった気がする。また、市民力の発揮についても、こういった交流に関わる内容に関して、活力づくりの中でふれてほしい。
- ・学都・仙台の資源を多面的に生かすまちづくりについては賛成だが、次の10年の間にはもっとダイナミックに進める必要があるのではないかと非常に強く感じている。例えば、大学が力を合わせて学生に市民力を付けていくということを一体仙台の中でどのくらい実施できているのかというと、今の段階では非常に形式的。何ができるかが問われている。例えば京都の大学のコンソーシアムのようなしっかりとした拠点をつくり、その中で具体的に大学が手を合わせてやっていくとか。書きぶりはなかなか難しいと思うが、やはり京都のようなスタイルが一つの目標となるだろう。そのためには、大学の中にいる人たちがもっと奮起する必要もあると思う。

拠点という意味で京都の京都プラザのような駅前のビルをという話になると少々大変なところもあるが、各大学で始まっている良い取組をつなげていくといった仕組みづくりについては是非提案していきたい。

- ・学生が減っていく中でどれだけ仙台が魅力を持って学生をひきつけ得るか。重要なテーマであり、大学が連携しなければいけないし、市がやるべきこともある。学生が、自分が何年間かいる都だ、住まいだと思って市民として活動するような仕掛けや、できればその学んだことをベースにして自分たちが起業するような雰囲気をつくりたい。それを支えるような部分が民間の企業や何かの力でつくれないか。少し前向きに取り組んでほしい。
- ・「量」から「質」へというのは1980年代後半から90年代にかなり言われたキーワードで、それよりも、21世紀は国家の枠が柔らかくなって都市間競争、都市間協働といった、都市と都市とがダイレクトにつながっていく世界・環境になる。そういう世界の中で何ができるのか。仙台は、東京を経由しなくてもきっちりとプレゼンスを果たすようなすてきなまちになると宣言してはどうか。
- ・重視すべき視点の は市民力に対応しているが、 を書くのであればもっときちんと書くべき。市民力でがんばりますというような記述では足りない。 から までで表されている市民力をどのようにつくり上げていくのか、そのような書きぶりがよい。
- ・ の地域の話は、 から までで既に網羅されており、あえて項目を挙げるのは難しい気がする。むしろ、 市役所の自己改革の中に、それを推進する組織内の自己変革として記載してもよいのではないか。
- ・「学びを多彩な活力につなげる都市づくり」について（１）がミュージアム都市、（２）が学都、（３）が子供たちの話が書かれている。ミュージアム都市というのだけ切り離されると軽く見える。（２）の学都にしても、大学が開かれて地域の教育資源として変

わっていくとか、( 3 ) の学校も、わくわくするような、驚きと、楽しみと、出会いに満ちた学校にしていけますということで、それぞれとミュージアムを掛け合わせて書くというアイディアもある。それが市民力のエンジンをつくっていくのではないか。そこまできちんと書いた方がよい。

- ・重点政策の低炭素の記述がかなり短い。新技術や先端技術と連動した仙台的ライフスタイルの展開のような記述が欲しい。
- ・都市像の実現に向けた4つの経営方針について、「( 1 ) 未来を創る市民力の拡大と新しい市民協働の推進」の記載が、繰り返しが多くて分かりにくい。
- ・市民力というのは、人任せ、様子見、受動的ではなくて、主体となることができる、自律的に自分の問題だと捉えることができること。そういう主体となることができる市民を応援するために行政はきちんと任せる、見守ることが必要。また、市民力というのは新しい試み、地域の問題にチャレンジすることで、行政はチャレンジする市民力を後押しする、その考え方が重要。3番目は周りのことに対して非常にやさしい市民力で地域のことなどについてきっちり気配りができる。4番目は視野が広い、未来や世界に向けていろいろと考える思慮深い市民力。この四つが有機的に展開していくダイナミックな存在が我々の市民力と最初に書いたほうがよいのではないか。
- ・市民協働の地域展開については、端的に、市民センター・学校を市民力のプラットフォームとして位置づけることが必要。新しい建物ではなく、ファシリティマネジメントも絡めて支援を拠点化していくことが重要。企業人、高齢者、若者など、まだ地域のパワーになっていない潜在的な存在を、拠点化することで引き上げ、かつ、つなげていくことが可能になるはず、と書かれれば、何をしたいのかよく伝わる。
- ・市役所の自己改革について、財政状況が厳しいことは書くべきだが、それだけでは、結局のところ事業単位で予算が中途半端に縮小されて、パフォーマンスも中途半端になってしまう。各部局が互いに持っている類似施策を束ねて、横断的に取り組むことでパフォーマンスを出していく。それは庁内だけではなく、例えば大学と一緒にやると面白いことが起こるのではないか。同時に、各部局が法律に基づいた施策を行う場合でも、縦と横をうまく展開していった自己改革を図っていく必要がある。パブリックプライベートパートナーシップのように資金を介して官民と横断するようなことも含めてダイナミックに展開していく仙台市役所になるというような、具体的に何を自己改革するのか、その辺りも少し踏み込んで記述するといいいのではないか。

広範なご意見をいただき、感謝申し上げます。自己変革については、他のテーマでも記載しているところであり、後日、具体記述をご覧いただき、ご意見をいただきたい。市民力のプラットフォームについては、市民力と地域の両面でいろいろと検討をしている状況である。重点政策の持続可能な都市づくりについては、庁内的にも記載不足を指摘する声もあり、今後調整したい。学びの関係は、どこまで反映できるかという問題はあるが、可能な限り盛り込みたい。重視すべき視点については、整理途上であり、まだまだ過不足があることから今後精査を進めたい。冒頭の基本構想の導入部について「量から質」の表現はやや古い話であることは十分認識しているが、その「質」の向上を重視して心豊かな生活を志向するのが今回の成熟社会という位置づけであり、この考え方を広めた

い趣旨もあり、こうした表現にしている。また、国際化というテーマは、市民の感覚・ニーズとしては強いものではないので、グローバルや都市間協働などの視点をある程度盛り込んだ形に整理したところであり、ご理解いただきたい。

- ・市民力とは、市民がそれぞれ仕事を持ちつつ、地域でも関わるができる仕組みだと思える。仕事をしながら地域のためにまた関わる、これが充実していく。それを様々な学びを通じて実現していく。これを分かりやすい表現で伝えていく必要があるが、その際には、障害がある人も高齢の人も地域の支え合いの担い手の一つであることを明記してほしい。
- ・いろいろな人たちと地域の中で関わる中で子供たちが育ち合うという表現はできないか。また、市民力を発揮するには拠点としての機能整備が必要だと感じた。
- ・最近、10年後はどういう社会になっているのかを考えるようになってきた。変化の速さを考えると、例えば、何か生きていける前提が変わると学びの都、共生の都、潤いの都というものがそもそも成立しなくなるのではないかといった不安を強く覚える。基本計画は10年がかりの計画なので、現実と夢がセットで語られるような計画であればうれしいと強く感じている。
- ・100万都市の仙台は、東は太平洋から、平場の農村地帯、田園があり、北西部は山岳地帯あるいは中山間の農業地帯となっているのに、農林業に関する記述が若干少ない。洪水から守ったり、環境を守ったりする、農業が持つ多面的機能が100万都市をしっかりと支えているという点を記載してほしい。また、食料自給力を高める、あるいは農産物に付加価値を加える農商工連携の取組についてもしっかりとつくり上げてほしい。
- ・地方分権の話がいろいろ出ている状況でもあり、仙台の基本構想・基本計画であれば、仙台はどうすれば誇りを持って仙台だけでやっていけるのか、そのようなイメージが読み取れる記述があると良い。
- ・仙台におけるミュージアム都市とはどういうものを分かりやすく表現してほしい。
- ・子育て支援に関しては、病児・病後児と書くのであれば、障害児の支援という言葉も入れてほしい。実際、障害児を抱える親御さんたちの苦勞を目の当たりにしてきている。
- ・児童クラブは一般的には学童保育と呼ぶので、学童保育に統一してはどうか。
- ・審議会や市民の意見をよくまとめた后感心している。ただ、市民がこれを読んだときに、自分自身を指していることが分かりにくいかもしれない。市民力は自分が担い手なのだと読んでくれるかが気がかりな点である。
- ・仙台の都市像のサブタイトルについては、説明文にした方が分かりやすい。
- ・全体的に内向きな記述となっているので、多少夢のある感じでダイナミックな部分があってもよいのではないかなと思う。
- ・障害者等の障害という表記だが、最近「害」をひらがなで書いてほしいという要望が総意ではないがあるので検討してほしい。  
個別の施策分野での見解もあるので、内部で検討したい。
- ・100万都市を守るには、杜の都だけではなく、都心部の一回り外までをしっかりと整備し、ただ維持するだけではなく、何とか農業も保たれていき、若者も住めるような状況にする、それくらい話を盛り込めたらいいと思う。計画としてはその方がずっと夢がある

し、面白みが出てくるのではないか。

- ・歴史・文化をより強調してほしい。歴史というと、一般的には後ろ向きだとか、内向きだと言われがちだが、仙台の都市の魅力の骨格を成すのはやはり時間の積み重ねだと思う。修正案について、歴史性・文化性については少々後退した印象を持ったので、戻してほしい。

後退させたつもりはなく、誤解を招いて申しわけない。できる限り趣旨を踏まえて記載したいところだが、未来に夢を描くという観点と、未来に責任を持つという観点と、両面が求められている。基本構想、基本計画でどのレベルで記載するか、実施計画では財政状況も踏まえて具体的に何をやるのか、その切り分けをしっかりとしながらまとめていきたい。

## (2) その他

- ・特に意見等はなかった。